

令和7年度島根県立大学学生研究奨励事業研究結果概要書

有富 達哉

1, 研究テーマ

石見神楽の魅力を伝える情報発信の在り方

2, 研究の目的

本研究は、浜田市の伝統芸能である石見神楽について、全国の人々、特に若年層にその魅力を効果的に伝える情報発信の方法を明らかにすることを目的とした。

近年、石見神楽は継承者不足や社中構成員の高齢化が課題となっており、魅力や迫力が十分に伝わらないまま存続が危ぶまれる可能性がある。そこで、本研究では石見神楽といっても各神楽社中が持つ演目や表現の違い、重視している点などに着目し、それらを可視化・発信することで、石見神楽の新たな魅力発見・関心につながることを目的とした。

3, 研究方法

研究方法として、浜田市内の複数の石見神楽社中を対象に聞き取り調査および鑑賞調査を実施し、各社中が重視している演出や特色、考え方の違いを整理した。

その結果をもとに、社中ごとの特徴や個性をまとめた動画を制作し、情報発信の効果を検証するため、実際に神楽公演会場において来場者にアンケート調査を行い、発信内容に対する意見を求めた。

4, 研究結果

調査の結果、石見神楽は一括りに語られがちであるが、社中ごとにオリジナルの演目、舞や囃子の表現、観客への見せ方などに明確な違いがあることが分かった。

また、これらの違いを事前に知ったうえで鑑賞することで、「比較しながら楽しめる」「様々な社中を見てみたい」などの肯定的な意見が多く、ほとんどの方が社中ごとの違いを発信することでさらに石見神楽を楽しめると回答していた。

5, 研究の成果と今後の課題

本研究により、石見神楽の魅力を「社中ごとの違い」という視点で発信することが、理解促進や関心喚起につながるということが明らかになった。また、新たな視点で石見神楽を発信し様々な石見神楽を鑑賞する面白みを提供することで、鑑賞者を増加させ、将来的な継承者や観光客の増加につながり、石見神楽を機会に浜田市を盛り上げていくことに寄与すると考える。

一方で、今回の研究では神楽公演会場で実施したため、神楽に興味のある人が多く、新たな視点を提供することはできたが、新たな鑑賞者を確保することにはつながっていない可能性が考えられる。また、調査対象となった社中数やアンケート回答数には限りがあるため、今後は対象を広げた継続的な調査や発信媒体の多様化について検討する必要があると考える。